

平成26年度 病害虫発生予察情報

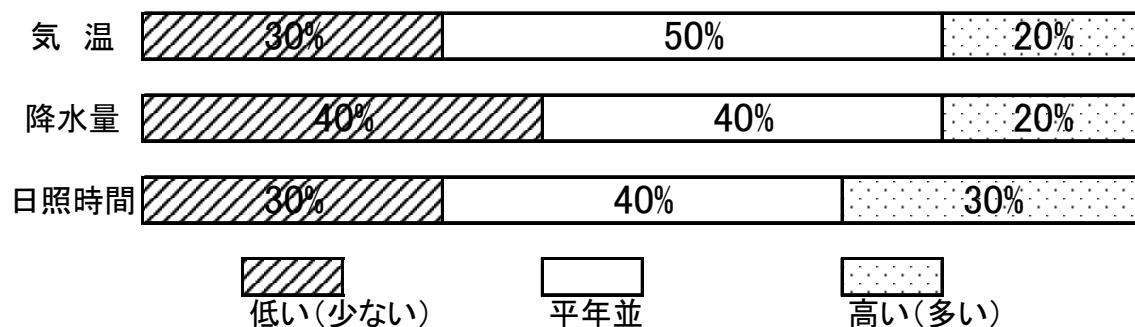
発生予報第7号（9月）

平成26年9月1日
島根県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量	
普通作物	イネ	穂いもち	平年並～やや多い	
		紋枯病	平年並	
		白葉枯病	少ない	
		ツマグロヨコバイ	やや少ない	
		トビイロウンカ	平年並	
		斑点米カメムシ類	平年並～やや多い	
果樹	ダイズ	ハスモンヨトウ	やや少ない	
		ナシ	黒斑病	平年並
			シンクイムシ類	平年並
	ハダニ類		やや少ない	
	カキ	カメムシ類	平年並～やや多い	
		うどんこ病	平年並	
カキミガ		平年並		
野菜	アブラナ科野菜	カメムシ類	平年並～やや多い	
		アブラムシ類	やや少ない	
		コナガ	平年並	
		アオムシ	やや少ない	
		ハスモンヨトウ	やや少ない	

中国地方1か月予報(8月30日～9月29日・広島地方気象台8月28日発表)
＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞



A. 普通作物

1) イネ

(1) 穂いもち

予報内容

発生地方

県内全域（きぬむすめ等で出穂期の遅いもの）

発生量

平年並～やや多い

予報の根拠

①きぬむすめの一部で葉いもちの発生が認められる。

②向こう1か月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とならない。

(2) 紋枯病

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

平年並

予報の根拠

- ①全般の発生量はほぼ平年並みである。
- ②向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とならない。

(3) 白葉枯病

予報内容

発生地方 常習発生地
発生量 少ない

予報の根拠

- ①全般の発生量は平年に比べてやや少ない。
- ②向こう1か月の気象は本病の発生にやや抑制的である。

(4) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①8月下旬の巡回調査では、捕獲虫数15.9頭/50株（平年56.2頭）、発生圃場率65%（平年77.2%）で発生量は平年に比べてやや少ない。
- ②8月第5半旬までの予察灯への飛来量は平年に比べてやや少ない。
- ③向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(5) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ①8月下旬の巡回調査では、捕獲虫数2.3頭/50株（平年3.8頭）、発生圃場率40%（平年29.7%）で発生量は平年並みである。
- ②8月第5半旬までの予察灯への飛来量は平年並みである。
- ③向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(6) 斑点米カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ①8月下旬の巡回調査では、捕獲虫数2.0頭/20回振り（平年2.5頭）、発生圃場率33%（平年56%）で発生量は平年並みである。
- ②8月中旬の防除員調査では、捕獲虫数3.3頭/10回振り（平年2.4頭）で発生量は平年に比べてやや多い。
- ③8月第5半旬までの予察灯へのアカスジカスミカメの誘殺数は平年並みである。
- ④向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

2) ダイズ

(1) ハスモンヨトウ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①現在、巡回調査での本種幼虫による1a当たりの白変か所数は0.1か所（平年0.4か所）でやや少ない。
- ②フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の累積誘殺数は、県東部で平年比53.3%、県西部で34.5%とやや少ない。
- ③向こう1か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 ナシ（二十世紀）栽培地帯
発生量 平年並

予報の根拠

- ①8月27日の巡回調査では、発病葉率は12.8%（平年16.3%）であり、平年並みである。
- ②向こう1か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

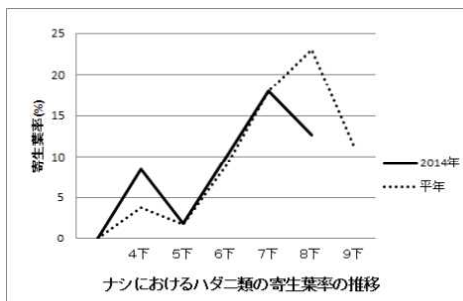
(2) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 ナシ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 予察圃場（安来市・出雲市）のフェロモントラップでのナシヒメシンクイ雄成虫の誘殺盛期、誘殺数とも平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は発生を特に助長する要因とはならない。



(3) ハダニ類

予報内容

発生地方 ナシ栽培地帯
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 巡回調査では、寄生葉率は12.6%（平年23.0%）でやや少ない。
- ② 向こう1か月の気象は発生を特に助長する要因とはならない。

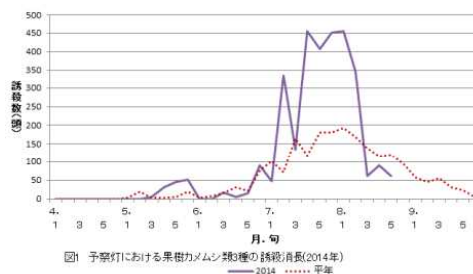
(4) カメムシ類

予報内容

発生地方 ナシ栽培地帯
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 予察圃場（出雲市）の8月第6半旬までの予察灯でのカメムシ類の誘殺数は2909頭（平年1390.6頭）とやや多い。
- ② 予察灯での8月第1～5半旬までの誘殺数は1017頭（平年892.8頭）と平年並みである。
- ③ 向こう1か月の気象は本種の発生に特に助長する要因とはならない。



2) カキ

(1) うどんこ病

予報内容

発生地方 カキ栽培地帯
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 8月28日の巡回調査では、発病葉率は8.4%（平年10.7%）であり、平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) カキミガ（第2世代）

予報内容

発生地方 カキ栽培地帯
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 第1世代幼虫による芽および果実の被害は平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は発生を特に助長する要因とはならない。

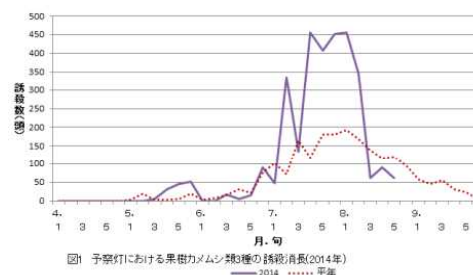
(3) カメムシ類

予報内容

発生地方 ナシ栽培地帯
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 予察圃場（出雲市）の8月第6半旬までの予察灯でのカメムシ類の誘殺数は2909頭（平年1390.6頭）とやや多い。
- ② 予察灯での8月第1～5半旬までの誘殺数は1017頭（平年892.8頭）と平年並みである。
- ③ 8月下旬の巡回調査ではカメムシの被害果率は6.4%（平年4.8%）とやや多い。
- ④ 向こう1か月の気象は本種の発生に特に助長する要因とはならない。



C. 野菜

1) アブラナ科野菜

(1) アブラムシ類

予報内容

発生地方 県下全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①現在、圃場での発生量はやや少ない。
- ②現在、黄色水盤への有翅虫の飛来量はやや少ない。
- ③向こう1か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) コナガ

予報内容

発生地方 県下全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ①現在、圃場での発生量は平年並みである。
- ②向こう1か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) アオムシ

予報内容

発生地方 県下全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①現在、圃場での発生量はやや少ない。
- ②向こう1か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(4) ハスモンヨトウ

予報内容

発生地方 県下全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①現在、圃場での発生は認めていない。
- ②フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の累積誘殺数は、県東部で平年比53.3%、県西部で34.5%とやや少ない。
- ③向こう1か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

島根県病害虫防除所

(島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科)

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

<http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaityuu/>